

尾州の匠 モノづくりリレー 2023

名古屋学芸大学 大谷 悠乃

有限会社カナーレ

代表の足立さんにしか生み出せない唯一無二のテキスタイルが有限会社カナーレの最大の魅力である。手作業でじっくり時間をかけて生み出すこだわりは他社に負けない。また足立さんは新しいものに常に興味を持ち、それを吸収することで創造力を高めている。

制作生地 『into』

『into』には「～になるまで、～の中に、～に夢中で、～に変わって」などの意味がある。今回の制作で糸が生地になるまでの工程を学ぶ中で織り方、使用する糸の種類などを少し変えるだけで全く別物が出来上がるテキスタイルに夢中になった。3色のチェック柄のテープと5色の糸を使用し、ふんだんに色を取り入れたテキスタイルを制作した。複数色を使用するのでごちゃごちゃするのを防ぐために、織り上げる前に全体のバランスをみて緯糸の配色を調整しながらまとまりを出した。織ることで初めて生地の色見え方が分かるため糸を発注する際の色選びはなかなかイメージが膨らまず苦勞した。しかし、足立さんの「自由にモノづくりする」「とりあえずやってみる」というアドバイスにより、考えすぎずに楽しんでモノづくりをすることができた。

感想

今回モノづくりリレーを通じて学校ではできない貴重な体験をすることができた。実際に織物製造指図書の作成や整経、織機に触れるなど生地を制作する一連の流れを体験したことに加え、足立さんから現場で働く人の話を聞いたり、小塚毛織株式会社の方々など尾州の方との関わりも増えてとても身になる活動になった。モノづくりリレーに参加したことにより、以前よりもテキスタイルの虜になった。今後の学校生活でモノづくりリレーの経験を活かし、さらに学びを深めていきたいと思う。

